

第1章 調査の目的と概要

1 調査の目的

この調査は、令和3年3月に策定した「目黒区障害者計画（令和6年3月まで）」の改定を行うにあたり、障害に関する手帳をお持ちの方及び難病患者の方、発達に関する不安や障害のあるお子さまの保護者の方の生活の様子や将来の希望などを把握し、計画改定のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の方法と回収状況

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者、児童の保護者について、無作為抽出(50%)した対象者に調査票を郵送した。
- ・調査票については「身体障害者用」「視覚障害者用（音声コード付き）」「知的障害者用」「精神障害者用」「難病患者用」及び「児童の保護者用」の6種類を作成した。
- ・郵送またはインターネットにより回収した。

		身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病患者	児童の保護者	合計
調査地域		目黒区内（施設入所者含む）					
調査方法		郵送配付・回収 インターネット					
調査期間		令和4年9月～10月					
調査対象（a）		1,408	371	768	319	426	3,292
有効回収数（b）	調査票	633	202	259	147	141	1,382
	割合	86.1%	92.7%	75.7%	82.6%	66.2%	82.0%
	インターネット	102	16	83	31	72	304
	割合	13.9%	7.3%	24.3%	17.4%	33.8%	18.0%
	計	735	218	342	178	213	1,686
有効回収率（b/a）		52.2%	58.8%	44.5%	55.8%	50.0%	51.2%

3 報告書を見る際の注意事項

- ・調査結果（表中）の比率は、その設問への回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示している。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・複数回答形式の設問については、その設問の回答数を基数として算出している。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがある。
- ・選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合がある。
- ・各設問に対する回答項目のうち、1位を白文字、2位を太文字で表示しているが、1位が複数ある場合には、2位の表示は行っていない。
- ・身体・知的・精神障害及び難病の方については、総計をグラフとして表示している。
- ・「前回（令和元年度）、前々回（平成28年度）に実施した設問については、グラフに結果（総計）を表示しているが、今回の調査で選択肢の増加や削除、選択肢の表現の変更を行っている場合がある。

4 標本誤差について

この調査の結果を見る場合に、考慮すべき統計上の誤差がある。考慮すべき誤差（標本誤差）の大きさは、「回答者数（標本数）が少ないほど大きく」、また「回答比率が低いほど大きく」なる。この標本誤差は統計学的に、以下の式によって算出できる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{p(1-p)}{n}}$$

例えば、「お答えいただくのは、どなたですか」という質問に、1,416人が答えており、そのうち83.7%が「宛名のご本人（代筆を含む）」と回答した。それぞれの数値を公式に代入すると、次の誤差が算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{0.837(1-0.837)}{1,416}} \doteq 0.0196$$

したがって、±1.96%が誤差の範囲内になる。つまり、この質問に対する目黒区の真の値は、81.74%～85.66%の間にあると考えられるということになる。

比率 基礎(n)	95%または 5%	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 40%	50%
1,416	±1.16%	±1.60%	±2.13%	±2.44%	±2.60%	±2.66%